



昭和20年7月19日、21年度
義勇軍募集(定員600人)
が行われました。しかし、8
月15日終戦となり義勇軍募集
は中止となりました。

勝岡中隊(総員258人、
うち上伊那86人・諏訪36人)
は、福島県で、軍隊と共に内
原訓練所部外訓練している最
中に終戦を迎えました。終戦
数日後、軍隊は解散して兵士
は去りました。しかし、義勇
軍には本部から連絡も食料の
補給もなく取り残されました。何日待ってもどこからも
連絡がありません。仕方な
く、9月7日内原訓練所に帰
りましたが、留守番がいただ

満蒙開拓青少年義勇軍

満州に送り出された子どもたち



国内で訓練中に終戦を迎えた

7 義勇軍は、
どんな終末を迎えたか

けで所長も他の職員も顔を見
せませんでした。それでやむ
を得ず、入所の際に支給され
たものをすべて返納し帰郷し
たということです。

『「苦労さん」の一言だけ
でいい。それを聞けていたら
日本の再建のためにまた頑張
ろう」とみんな考えていたの
に、義勇軍の終末でそのよう
な扱いを受け「ただむなしさ
だけが残っていた」、「心の傷
は深く傷心の日々を送ってい
た」、「義勇軍とは何だったの

「心の傷は深く傷心の日々」



昭和20年10月12日に20年度送出義勇軍解散式
が行われた上伊那図書館(現伊那市創造館)

だろうかとあらためて考える
気にもなれないほど落胆し
た」と、戦後40年近く過ぎて

んの悲しみ、絶望感は察する
に余りあります。

発行された「長野県満州開拓
史」に元中隊幹部が記してい
ます。国策として送り出され
た義勇軍に対する最終局の扱
いに對し、この義勇軍の皆さ

上伊那教育会に残された資
料によれば、9月半ば、拓務
省から「9月30日をもって義
勇軍は解散するものとす」と
いう通牒、10月6日、県から
「義勇軍解散式を上伊那も10

月15日までに終了せよ」とい
う指示がありました。そこ
で、急ぎよ、上伊那教育会を
中心に検討し準備を行い、10
月7日付で該当者や参加者に
開催通知を発送、10月12日、
地方事務所長と教育会長が主
催する形で、上伊那図書館に
おいて「義勇軍解散式」実施
という慌ただしさでした。

義勇軍は、国家が国策とし
て推進し、県や市町村、更に
郡市教育会に送出人数を割り
当て、送出を強力に迫ったも
のです。終戦時、訓練中の義
勇軍の最終処理や義勇軍解散
式を、本来誰が責任をもって
行うべきだったのでしょうか。

(元上伊那教育会長・矢澤静
二)